

WE ARE THE HOUSE

ウィー・アー・ザ・ハウス——わたしたちが家

向井山朋子、レベッカ・ゴンパーツ、ノア・ヤンスマ、メカニクス記梨子

2025年5月30日(金) — 6月8日(日)

京都芸術センター、No.317 ANEWAL Gallery、妙蓮寺塔頭玉龍院、ほか



「女性が小説を書こうと思うなら、お金と自分ひとりの部屋を持たねばならない。」ヴァージニア・ウルフ
'A woman must have money and a room of her own if she is to write fiction.' — Virginia Woolf

Photo: Joshua Hoogeboom-Noya, Logo Design: Simo Tse

WE ARE THE HOUSE

ウィー・アー・ザ・ハウス ——わたしたちが家 サロン・プログラム 京都編

向井山朋子 レベッカ・ゴンパーツ

ノア・ヤンスマ メカニクス記梨子

2025年 5月30日(金) — 6月8日(日)

京都芸術センター No.317 ANEWAL Gallery

妙蓮寺塔頭玉龍院 ほか

WE ARE THE HOUSE。「わたしたちが家」と
奇妙に題されたこのプロジェクトは、私と3人のオランダ人のアーティストやアクティビストが京都に滞在し、劇場・ギャラリー・お寺などを舞台に、地域の人々と共に語り合う場—HOUSEを立ち上げる9日間のサロン、そして2026年に発表されるパフォーマンスです。

女性性、家族、ジェンダー不平等、家父長制、LGBTQ、人権、中絶医療をテーマに、展示、パフォーマンス、トーク、映画、ワークショップ、パーティー、食堂を通して、アーティストと市民が出会い、対話するオープンで包括的な空間をつくり出します。

雨風をしのぎ、家族や共同体との安らぎの場、とされている**HOUSE**を観察し、シフトさせ、解放し、解体し、シェアし、共に創ることで、**HOUSE**は「わたしたちが家」となりうるのか。2025年大阪万博のオランダ公式文化プログラム「**WE ARE THE HOUSE**」は9日間の実験的な対話を通して、その問いに向き合います。

向井山朋子

みんなの祭壇

サロン開催中、写真や思い出の品、好きな花やフルーツを持ち寄り、自由に飾れる祭壇をつくります。あなたの想いをのせて、一緒にみんなの祭壇を完成させましょう。

※設置した物品は返却できません。また2026年3月に行うパフォーマンスで使用する可能性があります。

<p>設置期間：2025年5月30日（金）15:00—6月8日（日）18:00</p> <p>設置場所：京都芸術センターエントランス</p>
--

BIG HOUSE PARTY 要予約

様々なメディアやイベントで活躍中の関西を代表するドラッグクイーンたちが集結!ホールダンサーやゴージャボーイ、ウォーキングダンサーなども加え、総勢**23名**のキャストでお届けするゴージャスでパワフルなおープニングパーティー!!

出演：シモーヌ深雪、ブルーレット、OZ、フェミニーナ、アフリーダ・オー・ブラート、ショコラ・ド・ショコラ、ベベ・マーマレード／SHINTAROH、TAIYO、MAL／Iiana、MECAV／showTA、Tenchan、chihaya、Mokkyun／Yuki & Kei、inesik／D・K・Uraji／DJ kor、DJ Sunpuri

<p>日時：2025年5月31日（土）18:30-21:00</p> <p>会場：京都芸術センターフリースペース</p> <p>参加費：特典付きチケット 10,000円（限定15枚）</p> <p>一般：4,500円、U25：3,000円、U18：1,500円</p> <p>定員：200名</p>
--

※特典内容:「私のためのメイクオーバー」への参加、向井山朋子&ドラッグクイーンとのスペシャルフォトセッション（後日プリントアウトし郵送）、特製クリアファイル、ワンドリンクチケット付き

※25歳以下の方は、入場時に年齢確認のできる身分証明書・学生証等を持参してください。

※どなたでも自由にお使いいただける変身グッズをご用意しています。入場の際にひとつ身につけてください。

「WE ARE THE HOUSEは、“家”を単なる住居以上のものとして捉えます。それは社会のメタファーであり、公私の境界を守りながらも固く開き空間なのです。」
ノア・ヤンスマ

‘WE ARE THE HOUSE opens a door to the home as more than just a shelter — It is a metaphor for society, a space that both protects and challenges the boundaries of what is public and private.’ — Noa Jansma

私のためのメイクオーバー

ドラッグクイーンによるパーティーメイクやフェイスペイントなどを体験し、ジェンダーの枠を超えた自由な表現を味わいながら、自分だけの新たなジェンダーの可能性に出会いましょう。

<p>日時：2025年5月31日（土）17:00-18:30</p> <p>会場：京都芸術センターフリースペース</p> <p>料金：パーティーメイク：2,000円、ポイントメイク：500円</p> <p>※セルフメイク、マニキュアブースのご利用は無料</p> <p>※予約不要・先着順</p>
--

台所がつなく家族 要予約

家庭の台所に息づく物語を発見するアート・プロジェクト。家族の歴史や日々の習慣がどのように受け継がれているのか、普段あまり語られることのない視点から台所を見つめ直します。参加者は、祖父母から孫に伝授された料理を食し、「家族レストラン」を体験します。

<p>出演：ノア・ヤンスマ＋メカニクス記梨子</p> <p>日時：#1：2025年6月3日（火）12:00-14:00</p> <p>#2：2025年6月4日（水）12:00-14:00</p> <p>#3：2025年6月6日（金）12:00-14:00</p> <p>会場：No.317 ANEWAL Gallery</p> <p>定員：各回20名 ※参加無料</p>
--

「文学とは、物事への単純化に抗う、ニュアンスと矛盾の宿る家である。」スーザン・ソントグ

‘Literature is the house of nuance and contrariness against the voices of simplification.’— Susan Sontag

「人間は、自らの行動を制限し、善悪を定めるために、さまざまなルールを作り上げてきました。[...]しかし、家の中で起こることは、そうしたルールが適用されない世界なのです。」メカニクス記梨子

‘As humans we have created a whole set of rules for ourselves on how to behave, on what’s good and what’s bad [...] What happens inside the house is a world where these rules do not apply.’ — Kiriko Mechanicus

性と身体を学ぶスクール 要予約

自分の身体を知ること、性教育の基礎であり、自由への第一歩です。このスクールでは、身体・セクシュアリティ・健康・権利について学び、ディスカッションを通して理解を深めます。

講師：レベッカ・ゴンパーツ

#1 「科学と妄想」

<p>日時：2025年6月1日（日）17:00-19:00</p> <p>会場：京都芸術センターミーティングルーム2（南館3階）</p> <p>ゲスト：遠藤麻衣（アーティスト）</p> <p>定員：30名 ※参加無料</p>

#2 「私たちのからだ」

<p>日時：2025年6月3日（火）16:30-18:00</p> <p>ゲスト：三鶯なつ美（京都市中学校教諭）</p> <p>会場：No.317 ANEWAL Gallery</p> <p>対象・定員：中学生以下の子ども20名 ※参加無料</p>

#3 レクチャーパフォーマンス

<p>「避妊と中絶——200年の歴史」</p> <p>日時：2025年6月4日（水）19:00-20:30</p> <p>会場：京都芸術センターミーティングルーム2（南館3階）</p> <p>定員：50名 ※参加無料</p>

#4 「ミフェプリストン・マニフェスト」

※医療関係者のみ

妊娠初期の中絶に使用されるミフェプリストンの健康上の利点と最新の研究動向を解説し、その安全性や有効性に関する研究成果を紹介します。

「安全な中絶は人権である」レベッカ・ゴンパーツ

‘Safe abortion is a human right.’ — Rebecca Gomperts

「怒りは大きな家のようなもので、私たちはそこでひとりきりで暮らしている。」アッシュ・サンダース

‘Anger is the big house, and mostly we live there alone.’ — Ash Sanders

にほんご教室 要予約

「主人」「嫁」「奥さん」「家内」など、日本語には、家父長制や古い家制度を感じさせる家族の呼称が多く存在します。日常生活の中で、私たちはどのように呼び、呼ばれているのでしょうか。堀川団地の住民の方を中心に語り合い、それぞれの価値観に寄り添う言葉を探ります。

<p>日時：2025年6月5日（木）16:00-18:00</p> <p>会場：No.317 ANEWAL Gallery</p> <p>ゲスト：菅野優香（同志社大学大学院教授、映画研究）、中道照海（妙蓮寺塔頭玉龍院住職）、ジョイス・ラム（アーティスト、編集者）</p> <p>定員：20名 ※参加無料</p>
--

クィアって？

フェミニズムやクィアの視点からジェンダーやセクシュアリティに焦点を当てる映画研究者・菅野優香がキュレーションする映画上映会。上映後には、参加者と出演者が思い、感じたことを話し合う時間を設けます。

<p>出演：菅野優香（同志社大学大学院教授、映画研究）、メカニクス記梨子</p> <p>日時：2025年6月6日（金）18:00-21:00</p> <p>会場：京都芸術センターミーティングルーム2（南館3階）</p> <p>参加費：1,000円</p> <p>定員：30名</p>
--

縁食堂

西陣にある妙蓮寺塔頭玉龍院 でひとり親支援の活動を行う住職・中道照海と、ゆるやかに縁食を提案する農業史研究者・藤原辰史がテザインする子ども食堂。子どもも大人も一緒に食卓を囲みながら、食と繋がるの温かさを感じるひとときを。

<p>日時：2025年6月7日（土）12:00-15:00</p> <p>会場：妙蓮寺塔頭玉龍院</p> <p>特別ゲスト：藤原辰史（京都大学人文科学研究所教授、農業史研究者）</p> <p>参加条件：積極的に調理の準備や片付けをお手伝いくださる方を歓迎します。</p> <p>参加費：子ども無料、大学生以上300円</p> <p>定員：20名</p> <p>協力：こども食堂からふる</p> <p>※地域の方は、別途、玉龍院でも申込を受け付けています。</p>
--

「家は、そこで働く人々にとって安息の地ではない。」アン・オークリー

‘Homes aren’t a haven for the people who work in them.’ — Ann Oakley

乙姫ラジオ

放尿の音は、そんなに恥ずかしいものでしょうか?遠藤麻衣＋向井山朋子が、日本独特の文化であるトイレ用撮音装置をインスタレーションとして再構築し、多国語で流れる実用的な情報を取り入れたメディア・アートへと変換します。京都芸術センター内トイレを展示室として、音を消す文化だけではなく、世界各地の多様なトイレ文化にも目を向けて、トイレを巡る価値観や習慣を多角的に問い直します。

<p>アーティスト：遠藤麻衣＋向井山朋子</p> <p>設置期間：2025年5月30日（金）15:00—6月8日（日）18:00</p> <p>設置場所：京都芸術センター内トイレ</p>

<p>Event registration</p> <p>予約必要なイベントについては、京都芸術センターウェブページから申し込んでください。 https://www.kac.or.jp/events/20200410/</p> 

<p>Access</p> <p>京都芸術センター 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2 市営地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」22・24番出口より徒歩5分。市バス「四条烏丸駅」から徒歩5分。駐輪場あり。駐車場はありません。</p> <p>No.317 ANEWAL Gallery 京都市上京区奈良物町481堀川団地出水第3棟317号 市バス「堀川下長者町」から徒歩2分。駐輪場あり。駐車場はありません。</p> <p>妙蓮寺塔頭玉龍院 京都市上京区妙蓮寺前町871 市バス「堀川寺ノ内」から徒歩2分。市営地下鉄烏丸線「今出川駅」から徒歩18分。駐輪場あり。駐車場はありません。</p>
--

<p>Upcoming</p> <p>インスタレーション・パフォーマンス 向井山朋子「WE ARE THE HOUSE」</p> <p>本サロン・プログラムを通じて得られた言葉、着想、学びを紡いでクリエイションされるインスタレーション・パフォーマンスを世界初演します。</p> <p>日時：2026年3月21日・22日</p> <p>会場：京都芸術センター講堂（南館2階）</p> <p>※詳細は京都芸術センターウェブサイト等で後日発表します。</p>

<p>Contact お問い合わせ先</p> <p>京都芸術センター（公益財団法人京都芸術文化協会）</p> <p>Tel: 075-213-1000 (10:00-18:00) Fax: 075-213-1004 Mail: info@kac.or.jp</p>
--

アーティスト・プロフィール

向井山朋子 | WE ARE THE HOUSE ディレクター。ピアニストとしてロイヤルコンセルトヘボウ、ロンドンフィルハーモニー等と共演し同時代作曲家の初演に多く携わる一方、女性性を核に身体性、家族、ジェンダー、境界、記憶、儀式、食など異なるテーマを、舞台芸術やインスタレーション、映像など分野を横断して制作。劇場、美術館、個人宅、野外、オンライン、とあらゆる場所での作品の発表を展開している。

レベッカ・ゴンパーツ | 医師、医学博士。Women on Waves と Women on Web の創設者。アムステルダムを拠点に女性のリプロダクティブ・ヘルスサービスが提供されない圏において、安全な中絶サービスを提供している。2018年、米國で運営されているAid Accessを設立。訓練を受けた中絶の専門家であり活動家であるため、国境を越えた最初の中絶の権利活動家と見なされている。2020年のタイム誌の100人の最も影響力のある人々に選ばれた。

ノア・ヤンスマ | 植民地問題や気候変動といった身近な社会的課題を、時にユーモラスに可視化するアーティスト/マルチメディアデザイナー。

メカニクス記梨子 | ドキュメンタリー映画監督、フードライター、写真家、アートディレクターとして多岐にわたり活動する。常に意見をもつフルタイムの opinionated bitch、パートタイムのパーティーガール。

コラボレーター

アフリーダ・オー・ブラート（アートマネージャー/ドラッグクイーン）

遠藤麻衣（アーティスト）

菅野優香（同志社大学大学院教授、映画研究）

シモーヌ深雪（シャンソン歌手/ドラッグクイーン）

ジョイス・ラム（アーティスト、編集者）

中道照海（妙蓮寺塔頭玉龍院住職）

藤原辰史（京都大学人文科学研究所教授、農業史研究者）

三鶯なつ美（京都市中学校教諭）

クレジット

企画・製作：Tomoko Mukaiyama Foundation

共同製作：京都芸術センター、Nieuwe Instituut、Holland Festival

後援：駐日オランダ王国大使館、DutchCulture、CAN（カルチャー・オールニッポン）、一般社団法人マルタス

協力：京都市、NPO ANEWAL Gallery、妙蓮寺塔頭玉龍院、knocks! horikawa

助成：駐日オランダ王国大使館、DutchCulture、オランダ舞台芸術財団（Fonds Podiumkunsten）、アムステルダム芸術基金（Amsterdams Fonds voor de Kunst）、文化庁文化芸術振興費補助金（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会、日本万国博覧会記念基金事業

協賛：株式会社アルファブランカ

